

令和7年
47号
7月

群馬抑制廃止研究会

Gunma Yokusei Haishi Kenkyukai

だ

よ

り

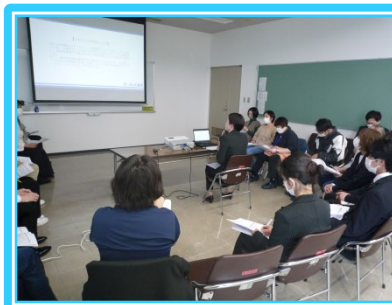


令和6年度 群馬抑制廃止研究会 例会「困難事例等に関する意見交換会」

【開催日程】 令和7年3月7日(金)

【開催場所】 メガネのイタガキ文化ホール伊勢崎
2階中会議室

例会に参加して(監事 小林澄昌)



【内容】

- ①「身体拘束につながる不適切ケア」 医療法人大誠会 介護老人保健施設 大誠苑 桑原沙織
本人の意向に対し、リスク回避の観点から対応した結果、不適切ケアになりがちな事例であり、プロ意識が高いが故にどこの施設にも起きがちな事例でした。優先すべきは、利用者の尊厳や意向であることが学べました。
- ②「デイサービスご利用者のBPSD」 社会福祉法人パトリア 特別養護老人ホーム アミーキ 小林澄昌
困難事例に対し自部署だけではなく、施設全体でご利用者の支援を行うことができた事例でした。自部署だけでは人員、時間に限界があるが、他部署の協力により課題に対応できる連携につながる事例でした。
- ③「夜間の頻回なコールや大声への対応」 医療法人信愛会 介護老人保健施設 うらく 佐藤由子
頻回コールや大声のもととなる原因を探り、職員共有しさまざまな観点からアプローチする。結果としてかわり方や生活リズムの調整、ニーズの受容など困難な部分だけでなく、その人自身と向き合う取組みが、とても参考になりました。
- ④「身体拘束の具体例」 医療法人樹心会 小内雄貴
身体拘束のグレーゾーンに着目し、参加者も考えさせられる発表でした。解釈の仕方によっては拘束であり、別の解釈ではご利用者の安全というものであり、施設によっても温度差があるといえる事例でした。大切なことは背景やご利用者の特性によって、ケースごとの対応が必要ということを再確認できました。
- ⑤「食事拒否するご利用者の対応」 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設 アルボース 若井 優
ご利用者自身が拒否される食事介助の事例であり、本人の口腔機能状態や家族の意向も踏まえた職員のアプローチの努力が伝わりました。食事拒否のあるご利用者への介助は、タイミングや覚醒状況などによっても変わるため、まずはその人に合わせたアプローチが大事なのだと思いました。

【まとめ】

今回の例会は、どの施設でも抱えている困難事例をテーマとし、発表施設における課題と取組み内容を参加施設で共有できる研修となりました。困難事例に対し、職員都合の目線ではなくご利用者の立場やADL、環境面に視点を置いて検討していることに改めて感銘を受けました。

事例発表後は、参加者同士で建設的な意見交換ができたことも非常に成果のある例会となりました。参加会員の皆さまが施設に持ち帰り、困難事例への実践につなげられる期待が持てました。

総 会 ・ 基 調 講 演

報

告

【 開催日程 】

令和7年6月13日(金)13:00～16:00

【 議 案 】

第1号議案
第2号議案
第3号議案
第4号議案
第5号議案

令和6年度事業報告について
令和6年度収支決算について(会計監査報告)
令和7年度事業計画(案)について
令和7年度予算(案)について
令和6・7年度群馬抑制廃止研究会役員について

【 基調講演 】

テーマ

「知らなきゃ損！待ったなしの介護現場
～介護×テクノロジーで未来をつくる～」

講 師

医療法人大誠会 介護統括部 統括介護部長
黒木勝紀先生



基調講演に参加して(幹事 木村 聡)

令和7年群馬抑制廃止研究会総会にて、「知らなきゃ損！待ったなしの介護現場～介護×テクノロジーで未来をつくる」と題した基調講演が開催しました。講師として医療法人大誠会 介護統括部 統括介護部長の黒木勝紀先生をお招きしました。日本の高齢化と介護人材不足が深刻さを増すなか、介護現場におけるICT(情報通信技術)やAI(人工知能)の活用について、多角的な視点からお話をいただきました。

講演のはじめに、2040年には高齢化率が35%を超え、介護人材が約69万人不足すると予測されている現状が紹介され、限られた人員でも質の高いケアを提供するための体制づくりが急務であると指摘されました。

続いて紹介されたのは、介護現場でのICTの具体的な活用事例です。タブレット端末やインカムを活用することで、職員間の情報共有が迅速かつ確実にになり、業務の効率化が図られています。また、IoT(モノのインターネット)技術を用いた見守り機器やセンサー付き記録システムの導入により、現場の負担軽減と利用者の安全性向上にもつながっていると報告がありました。特に参加者の関心を集めたのが、近年注目されている生成AIの活用についてです。ケア記録や計画書の下書き、書類作成の補助など、これまで時間がかかっていた業務をAIが支援することで、職員は利用者とのかわりにより集中できるようになります。また、AIはIoTと連携し、データから自動的に判断支援を行うことも可能になってきています。介護におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)は、単なる機器導入ではなく、働き方そのものを見直す機会でもあり、持続可能な介護体制をつくる鍵になると強調されました。

最後に「技術は道具であり、活かすのは人の力」という言葉が紹介されました。ICTやAIは職員の仕事を奪うのではなく、人間らしいケアを支える手段であるという視点が、多くの参加者に印象深く残りました。

今後、介護施設へのICTやAIの導入がさらに進んでいく中で、現場で働く一人ひとりがその意義を理解し、前向きに取り組む姿勢が求められています。本講演を通じて、技術と人の力が融合することで、より質の高い介護サービスの実現が可能になるという確かな手ごたえを感じることができました。



新

役

員

紹

介



【名 前】北爪 直樹
【役 職】監事
【職 場】社会福祉法人パトリア
特別養護老人ホーム アミーキ
【職 種】介護支援専門員
【趣 味】スポーツ観戦、旅行



【職場における役割】

特養のケアマネとして勤務しており、ご家族や多職種と連携を図りながらご利用者さまの安心、安全な生活が送れるよう支援をさせていただいています。

【抑制廃止に対する考え方】

身体拘束や不適切ケアは、ご利用者、ご家族、介護者などへマイナスイメージを与えるだけでなく、自由や尊厳を傷つける行為であります。抑制廃止を行うことは人権尊重や安心のできる生活を守ることに繋がると思っていますので、組織全体で取り組むことが大切であると考えています。

【抑制廃止研究会の役員としての抱負】

「その人らしさ」のあるケアへ向けて、さまざまな職種の人との意見交換ができたかと考えています。また、活動をとおして一人でも多くの方が抑制廃止に共感し、より良いケアの実践へ繋がるよう取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

入会随時受付中
施設単位などでご入会
いただく賛助会員と
個人会員がごぞいます



賛助会費
年会費10,000円

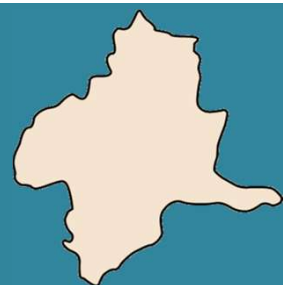
よりよい
ケアを
一緒に
目指し
ませんか。



個人会費
年会費1,000円
入会費1,000円

◆◆◆◆ 群馬抑制廃止研究会 ◆◆◆◆

賛助会員・個人会員募集中



群馬抑制廃止研究会が設立して24年目を迎えることができました。会員の皆さまのご理解とご協力のもと、活動を継続して参りました。現在、さまざまな職種の方々に会員としてご参加いただいております。皆さまそれぞれの立場で日々大変な努力をされていることと存じます。その思いを实らせて、さらに活動の輪を広げていくことが大切だと思います。ぜひ、多くの皆さまのご入会をお待ちしております。

賛助会員施設一覧（五十音順）

特別養護老人ホーム	介護老人保健施設		病院
アミーキ	赤城苑	旭ヶ丘	伊勢崎福島病院
ヴィレージュ	アルボース	いずみの里	黒沢病院
桜桃園	ウエルライフ三愛	うららく	須藤病院
ことぶきの郷	鬼石	金山	角田病院
サンライフアネックス	銀玲	ケアピース	鶴谷病院
ホピ園	宏愛苑	ココン	富士ヶ丘病院
ゆたか	聖寿園	大誠苑	美原記念病院
	ふじあく光荘	武尊荘	吉井中央診療所
	まゆ玉	陽光苑	
	和光園		

お申込み・お問い合わせはこちらから



発行：群馬抑制廃止研究会事務局

事務局：能見・高草木

〒372-0006 群馬県伊勢崎市太田町427-3

電話：0270-21-2700

E-MAIL：g-yokusei@mihara-ibbv.jp

URL：https://mihara-ibbv.jp/arbos/control/